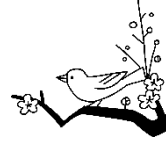


生徒のみなさんは必ず保護者の方に渡してください。

西尾が丘

令和7.3.3
直方第二中学校
校長 川原 国章
第14号

一年を振り返って



1年間、本校の教育活動にご理解とご協力をいただきありがとうございました。今年度も残り1ヶ月となりました。学習のまとめを行い、卒業・進級に向かって充実した3月にしたいと考えています。

さて、今年度のお子さまの成長ぶりはいかがでしたでしょうか。

新しい学年を迎える前のこの時期は、学校としても一人ひとりの生徒の成長を見つめる大切な時期です。学級担任は「指導要録」を作成しながら、学級の一人ひとりの生徒がどれだけ成長したのかを確認し、進学・進級を機に次への更なる成長へとつながるよう、一人ひとりの生徒にあった指導を常に模索しています。保護者の皆様や地域の皆様と一緒に考え、共に子どもたちの成長に喜びを感じ、一人ひとりにあった教育をより一層進めていきたいと考えています。

あま いし 「雨だれ石をうがっ」

今回は、「雨だれ石をうがっ」ということわざについてです。聞いたことがありますか？「雨だれ」というのは、屋根や軒先からぽたぽたと落ちる雨のしずくのことです。「石をうがっ」の「うがっ」とは、穴をあけるとか、突き抜けるという意味で、「石をうがっ」とは「石に穴をあける」という意味になります。つまり、屋根から落ちる雨だれのような小さなしずくでも、長い間ずっと同じところに落ち続けると、硬い石に穴をあけてしまうことがあるということです。このことから、小さな力でも根気よく努力すれば、いつかはその結果として大きな成果が得られるということを表したことわざになります。石に穴をあけることは、簡単ではありません。強く叩けば、石が割れてしまいます。ですから、長い時間をかけてじっくりと同じことをただひたすらにやり続けるということが、硬い石に穴をあけるという一見できそうもないようなことを実現することができるということです。

いちごいちえ 「一期一会」を大切に

一期一会とは、「人との出会いや物事を行う機会は生涯で一度きりであり二度と同じ機会は訪れない、だから一度きりの機会を大切に」という意味で用いられています。もともとは千利休の言葉で、「茶席に臨むにあたり、同じ機会は二度とないということを肝に銘じて誠心誠意を尽くすこと」という茶道の心得と伝えられています。3年生の卒業が近づいてきました。じわじわと「別れの寂しさ」が胸に迫ってきているのではないのでしょうか・・・。

3年生は、この3年間、たくさんの出会いや別れがあったと思います。

一期一会を大切に、これから続く長い人生で繰り返される「出会い」と「別れ」、それは「喜び」と「悲しみ」でもあります。四季を繰り返すごとに強くたく成長する木々のように、まさに「出会いと別れが人を育て、強くする」のです。



有終の美を飾ろう！

「有終の美を飾る」という言葉には、「最期の締めくくりをしっかりとし悔いを残さない」という意味があります。次のことを大切にしてください。

1 「学習の締めくくりをする」

「できること」と「できないこと」を見つめ直しましょう。「できること」は、さらに「できる」ように、「できないこと」は、あきらめずに「できる」ように努力しましょう。

2 「生活の締めくくりをする」

人として・中学生として、あたり前のことがあたり前にできているかどうか見つめ直しましょう。慣れや甘えからあたり前のことをおろそかにしないようにしましょう。

3 「学校をきれいにする」

この1年間お世話になった教室・廊下・机・椅子など、感謝の気持ちを込めてきれいに掃除しましょう。掃除をすることで自分の心も磨くことができます。

4 「今を最高に生きる」

今の学級・学年での生活を大切に、何事にも全力で取り組みましょう。そして、仲間や先生方との絆をさらに深めましょう。

